



憲法を守ろう・市原市民連絡会

憲法記念日講演会

2005年5月3日(火祝)
YOUホール(市原市勤労会館)

13:30

司会 桑田尚子(連絡会)

オープニング ----- 会場のみなさん、一緒に唄いましょう!

あのすばらしい愛をもう一度

【作詞】北山 修 【作曲】加藤 和彦 【編曲】橋本 祥路

卒業写真

はこべの花は

【作詩】永井和子 【作曲】神野和博

翼をください

【作詞】山上路夫 【作曲】村井邦彦

演奏：阿南信宏(アコーディオン)

土方洋子(ピアノ)

米本博之(クラリネット)

齋藤早苗(ソプラノ)

齋藤隼央(斉唱指揮)

主催者あいさつ 松下佳紀(連絡会共同代表)

講演 14:05~15:25

吉田敏浩 ジャーナリスト

「戦争の加害者にも被害者にもならないために」

<休憩>

呼びかけ人・リレートーク(順不同) 15:35~16:05

飯高和子(書道家)

大木みつ子(医療法人社団博瞳会常任理事)

齋藤和夫(大学講師)

林 政子(市原平和のつどい代表)

守川幸男(弁護士)

山川建夫(元フジテレビアナウンサー)

質疑

事務局連絡 鳩川 静(連絡会事務局長)

閉会あいさつ 中村美彦(連絡会共同代表)

16:30

事務局 (月・水・金 10:00~16:00)

市原地区労働組合協議会 気付

〒290-0056 市原市五井 1340-2

TEL&FAX 0436-21-5473

MAIL i-chikurou@point.ne.jp

郵便振替 憲法を守ろう・市原市民連絡会

00120-8-540357

日本国憲法

1946(昭和21)年11月3日公布 1947(昭和22)年5月3日施行

日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、われらとわれらの子孫のために、諸国民との協和による成果と、わが国全土にわたって自由のもたらす恵沢を確保し、政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する。そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであって、その権威は国民に由来し、その権力は国民の代表者がこれを行使し、その福利は国民がこれを享受する。これは人類普遍の原理であり、この憲法はかかる原理に基づくものである。われらは、これに反する一切の憲法、法令及び詔勅を排除する。

日本国民は、恒久の平和を念願し、人間相互の関係を支配する崇高な理想を深く自覚するのであって、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した。われらは、平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ。われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。

われらは、いづれの国家も、自国のことのみに専念して他国を無視してはならないのであって、政治道徳の法則は、普遍的なものであり、この法則に従ふことは、自国の主権を維持し、他国と対等関係に立たうとする各国の責務であると信じる。

日本国民は、国家の名誉にかけ、全力をあげてこの崇高な理想と目的を達成することを誓ふ。

第9条

日本国民は正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。

国の交戦権はこれを認めない。

第96条

この憲法の改正は、各議院の総議員の三分の二以上の賛成で、国会が、これを発議し、国民に提案してその承認を経なければならない。この承認には、特別の国民投票又は国会の定める選挙の際行はれる投票において、その過半数の賛成を必要とする。

憲法改正についての前項の承認を経たときは、天皇は、国民の名で、この憲法と一体をなすものとして、直ちにこれを公布する。

第97条

この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であって、これらの権利は、過去幾多の試練に堪へ、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたものである。

第98条

この憲法は、国の最高法規であって、その条規に反する法律、命令、詔勅及び国務に関するその他の行為の一部または全部は、その効力を有しない。

日本国が締結した条約及び確立された国際法規は、これを誠実に遵守することを必要とする。

第99条

天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。

テーマ
講師

戦争の加害者にも被害者にもならないために

吉田敏浩さん (アジアプレス・インターナショナル)

1957年大分県出身。77年にビルマ・シャン州の解放区を訪ねて以来、ビルマ、タイ、アフガニスタン、インド、バングラデシュなど、アジアの諸民族の世界を訪ねる。

1985年3月から88年10月まで、ビルマ北部のカチン州とシャン州へ3年7ヶ月に及ぶ長期取材。その記録をテレビ番組「回想のジャングル」(NHKスペシャル)にて発表。また同記録をまとめた「森の回廊」(NHK出版)で第27回大宅壮一ノンフィクション賞(96年)を受賞。

その他の著書に、『宇宙樹の森』(現代書館)、『北ビルマ、いのちの根をたずねて』(めこん)、『生命の森の人びと』(理論社)、『夫婦が死と向きあうとき』(文芸春秋)。共著に『アジア大道曼荼羅』(現代書館)、『世界の民・光と影』(明石書店)などがある。

『ルポ 戦争協力拒否』岩波新書(赤927) 2005年1月刊

「はじめに」

[再選を果たしたブッシュ大統領は、05年1月にファルージャ掃討作戦を行った]。抵抗武装勢力も住民も見境なく虐殺し、街を破壊した。およそ2000人の民間人が死亡したともいわれる。

このような米軍の無差別攻撃を、小泉首相はいち早く支持し[たが、イラク市民の犠牲はテロ対策のためのやむを得ない犠牲というのだろうか]。

ファルージャ攻撃には、沖縄に駐留する米海兵隊も加わっている。イラク侵攻作戦では、横須賀から出た米空母の艦載機が爆弾の雨を降らし、巡洋艦はミサイルを撃ち込んだ。在日米軍基地はイラク戦争と占領の出撃拠点になっている。その米軍基地を維持するために、日本の国費が毎年およそ6600億円も提供されている。

...しかし、日本人の多くはその事実が気がつかず、イラクの現実を自分たちとは関係のない遠い国のできごとと見過ごしているのではなからうか。だが、日本がアメリカの戦争に加担し、加害者の側に立っているという事実は、これからの日本、日本社会、日本人のありようにも深く関わってくる問題なのである。...

- 1 戦争のできる国へ
- 2 自衛隊員は命令を拒否できるか
- 3 有事体制を拒否する人々
- 4 自由にもものも言えない社会に抗して
- 5 戦争の加害者にも被害者にもならない



あのすばらしい愛をもう一度

作詞：北山 修

作曲：加藤 和彦

編曲：橋本 祥路

- 一 命かけてと 誓った日から
すてきな思い出 残してきたのに
あのとき 同じ花を見て 美しいと言った二人の
心と心が 今はもう通わない
あの素晴らしい 愛をもう一度
あの素晴らしい 愛をもう一度
- 二 赤とんぼの歌を 歌った空は
なんにもかわって いないけれど
あのときずっと 夕焼けを 追いかけていった二人の
心と心が 今はもう通わない
あの素晴らしい 愛をもう一度
あの素晴らしい 愛をもう一度
- 三 広い広野に ぼつんといるよで
涙が知らずに あふれてくるのさ
あのとき 風が流れても 変わらないと言った二人の
心と心が 今はもう通わない
あの素晴らしい 愛をもう一度
あの素晴らしい 愛をもう一度

翼をください

【作詞】山上路夫

【作曲】村井邦彦

- 一 いま私の願いごとが
かなうならば翼がほしい
この背中に鳥のように
白い翼つけてください
この大空に翼をひろげ
飛んで行きたいよ
悲しみのない自由な空へ
翼はためかせ
行きたい
- 二 いま富とか名誉ならば
いらないけど翼がほしい
子どものとき夢みたこと
今も同じ夢に見ている
この大空に翼をひろげ
飛んで行きたいよ
悲しみのない自由な空へ
翼はためかせ

この大空に翼をひろげ
飛んで行きたいよ
悲しみのない自由な空へ
翼はためかせ
行きたい



卒業写真～東京大空襲60周年のつどいのために

永井 和子 作詩
神野 和博 作曲

Em G Em

お お よ め に い く と き か か あ さ ん が わ た し て く く れ た
お お よ め に い い き と き か か あ さ ん が わ た し て く く れ た
お お よ め に い い き と き か か あ さ ん が わ た し て く く れ た

5 G Em Bm Am Bm Em

子 じ ゃ し ん の ア ル バ ム は
東 京 つ ぎ 大 空 襲 し し ゃ し ん の の ア オ ル バ ム は
そ 京 つ ぎ 大 空 襲 し し ゃ し ゃ し ん の の ア オ ル バ ム は

9 Em D Em D Bm Em

お さ な い わ た し が す い わ つ て る ま つ す ぐ ま え を み つ め て る そ い
わ た し が す い わ つ て る ま つ す ぐ ま え を み つ め て る そ い
わ た し が す い わ つ て る ま つ す ぐ ま え を み つ め て る そ い

14 D G Am Bm Am

か ら は な し て く れ た の は ろ く じゅう ね せん
か ら は な し て く れ た の は ろ く じゅう ね せん
か ら は な し て く れ た の は ろ く じゅう ね せん

18 Em Bm Em D G Bm

ま え の さ ん が つ と う か か あ さ ん の そ の ま た か あ さ ん
ま え の さ ん が つ と う か か あ さ ん の そ の ま た か あ さ ん
ま え の さ ん が つ と う か か あ さ ん の そ の ま た か あ さ ん

23 Em Am Bm Em Bm Em

の も え て し ま っ た そ つ ぎ ょ う し き
の も え て し ま っ た そ つ ぎ ょ う し き
の も え て し ま っ た そ つ ぎ ょ う し き

お嫁にいくとき母さんが渡してくれた
卒業写真のアルバムは
幼い私がすわっている
まっすぐ前をみつめてる
それから話してくれたのは
六十年前の三月十日
母さんのそのまた母さんの
燃えてしまった卒業式

未来に生きる子どもらに渡してやろう
卒業写真のアルバムを
幼い笑顔そのままに
まっすぐ生きてほしいから
それからきつと話してやろう
六十年前の三月十日
母さんのそのまた母さんの
燃えてしまった卒業式

お嫁にいくとき母さんが話してくれた
東京大空襲のお話は
私の身体を痛くする
しっかり胸にうけとめる
生きられなかった悔しさを
繰り返し返さない三月十日
母さんのそのまた母さんの
燃えてしまった卒業式

はこべの花は

永井 和子 作詩
神野 和博 作曲

かとう ささき んん かとう ささき んん はこべの はなは どなたに しー

てき もえ るた のく はるーの あさに どなたに しー てき ゆひは るるな

のの はるの かぜ に ややす かかべ れれて たての つすい ちみく

まにさ いなき ちえ めたる んこひ のえを みおね どわが りれっ にてて そあし めかけ るくる はもほ こえこ べたへ ぐかく

さわさ 二 つつあ たえる いるい ささき んん がが つつ かか べせ 二 にに ゆわ れとら

てばう とけ いさう きすた のにう よいよ うてう などに はなをひらく

なよい みあ のの のよし るる ななし しろいはなを

かあさん かあさん はこべの花は
 どうして萌えるの 春の朝に
 どうして揺れるの 春の風に
 焼かれた土を いちめんの
 みどりにそめる はこべぐさ
 つめたい三月 風にゆれて
 吐息のような 花をひらく
 泪のような 白い花を

とうさん とうさん はこべの花は
 どうして咲いたの 春の朝に
 どうして光るの 春の風に
 焼かれて炭に なった声
 追われて赤く 燃えた川
 つたえる三月 風のことば
 消さずにいると 花をひらく
 夜明けのような 白い花を

とうさん かあさん はこべの花は
 なにを ささやく 春の朝に
 なにを はこぶの 春の風に
 すべてのいくさ 消える日を
 願って茂る はこべぐさ
 明るい三月 風に笑う
 歌うように 花をひらく
 いのちのしるし 白い花を

© 050206 jinno

ミュージック・ハウス<夢>
 メールアドレス: jinno@coral.ocn.ne.jp
 ホームページ: http://www9.ocn.ne.jp/~jinno/